

家族への愛が 生み出す至高の ジュエリー



エンブレイス ミー
EMBRACE ME

1 893年、ドイツ・プフォルツハイムで卓越したゴールドスミス（金職人）のエルンスト・アレクサンダー・ウェレンドルフが、ジュエリーファクトリーを開設した。2023年は、創業130年の節目の年だ。この間、家族経営のゴールドマニュファクトリーであることを貫く。4代目にあたる現当主のクリストフ・ウェレンドルフ氏が来日した際に、一貫した家族経営が、ものづくりにどのような影響を与えているのかを聞いてみた。「ウェレンドルフは、愛からベストなものをつくり出そうとしてきたブランドです。例えば、ウェレンドルフのシグニチャーピースであるシルクコーデルは、私の母であるエヴァが『見た目も肌触りもシルクのようなネックレス』を望んだことに端を発します。ゴールドスミスでもある父・ハンスペーターは、冷たくて硬いゴールドを、いかにして妻の願いをかなえるようなものにするかに腐心し、開発に2年の歳月をかけました。そして1977年に完成したのが初代のシルクコーデルなのです」

それから44年後の2021年、さらに進化した“伸縮す



「THANK YOU FOR. Golden Rainbow」。創業以来こだわり続ける質の高いK18イエローゴールドと輝くダイヤモンドを合わせ、独自に開発したウェレンドルフ・エマイユ（エナメル）でカラフルに仕上げた虹色のリング。ウェレンドルフの技術の粋が集う華やかな逸品。



Christoph Wellendorff クリストフ・ウェレンドルフ

ウェレンドルフ家の第4代にあたる当主。1964年ドイツ・プフォルツハイムに生まれる。1986年ゴールドスミスとしての認定を受ける。1990年 University of StuttgartのMBA取得。1993年に歯科医のアイリスと結婚。3人の子の父。2002年よりウェレンドルフのマネージングパートナーとして、弟・ゲオルクと共に経営にたずさわる。

るゴールド”を用いたブレスレットが誕生した。

「ある時、弟・ゲオルクの妻・クラウディアが、ブレスレットをあまり着けたがらないことに気がきました。なぜかと聞くと『はめたり、外したりするのが難しいから』と。仕事を持ち、アクティブに活動する女性たちは、ブレスレットに着脱のしやすさを望んでいたのです。そこから“ノーモア・クラスプ（留め具）”のリサーチを始めました」

ゴールドは柔軟性がないという考えを、人類は紀元前3000年以上前から受け入れてきた。その考えを受け入れるか、それともゴールドをフレキシブルにする最初の成功者になるか、という二つの選択肢のうち、後者を選んだという。17年かけて、ついに完成した「エンブレイスミー」。驚くほどの伸縮性と柔軟性を兼ね備えた、クラスプのない美しいブレスレットだ。腕に巻き付けると、完璧な環となり、するりと外すときちんと元通りに戻る。

ウェレンドルフのジュエリーの比類なき着け心地のよさと、フォルムの美しさ。それらが身近な人々への愛から生み出されたものであることを知り、ウェレンドルフが、家族経営を貫く真意に触れた気がした。至福のとき、「愛の瞬間を永遠にとどめたい」と願ったとき、ウェレンドルフのジュエリーを思い起こしてほしい。